

平成18年度実績評価事務事業進行管理表

事務事業名	観光情報共有事業				財務会計上の位置付け	会計	款	項	目	細目	細々目	19予算額(千円)
部等名	産業経済部	課等名	観光課		包含する細々目	1	7	1	4	10	7	
政策	1 多様な産業が発展できる経済力の強いまちづくり											
施策	11 事業者自らが実施するパワーアップ活動											
実施区分	継続	会計	一般会計	環境調整会議	関連計画条例等	地域経済活性化プログラム						
		事業期間	18	年度～		年度						

【Do】(1)この事務事業は次の目的を達成することを目指します。

目的の記述	対象(人や物、自然資源など)	対象の大きさを表す対象指標名と単位	対象指標の数値			
	観光拠点で観光入り込み客数が発生する場所	主要観光拠点(カ所)	現状又は19年度見込	23年度又は終了年度		23年度以前に終了は終了年度とする
	観光消費額が生じる事業所	観光拠点の事業所(カ所)	20	60		
	意図(成果は何か、対象をどうかえるか)	成果達成度を表す成果指標名と算定式・単位	成果指標の数値(実績・目標)			
	観光拠点で観光入り込み客を把握し、飯田に訪れた観光客を滞留させる。	滞留させた観光客数	18目標	30000	最終目標	
		滞留により増加した観光消費額(円)	18実績		19目標	↑
		23目標		23実績	最終目標達成年度	
		18目標		最終目標		
		18実績		19目標	↑	
		23目標		23実績	最終目標達成年度	

(2)意図を達成するために以下のことを取り組みます。

手段の記述	事業の全体概要(補足説明)	具体的活動内容(やり方、手順、詳細)	活動量を表す名称・単位	活動量の値
	観光客の飯田市への流入経路について、合併により遠山郷からの新規経路が確立された。これら、観光客の流入経路を適切に把握するとともに、市内観光拠点への入り込み状況や、消費動向を適切に把握しながら、交通・宿泊・立ち寄りなどに対して、1日でも多く滞留させるための情報を提供する。また、意欲ある観光拠点の事業者が、自由に情報を取り出すことで自らの経営プランに反映できることとする。 市内主要地点での観光客の入り込み状況と観光消費額を一元管理し、情報をプールできるシステムを作る。 事業者自らが統計情報を取り出せる仕組みを構築する。 観光事業者の対象を広げることで、情報量が飛躍的に伸び、ビジネス観光や旅客の動向が適切に把握され、新規の事業者の育成や事業転換などが望める。	観光協会に調査を委託して、観光情報の収集を行う。 天竜峡以外の宿泊施設の状況調査 ・統計的手法による観光客の移動実態の分析や施設に対するアンケート調査の実施	観光事業者数(数)	40
	18年度の実績			
	19年度計画	観光協会に調査を委託して、観光情報の収集を行う。 観光消費額の発生する立寄り施設を調査する。(食事、みやげ、農産物など) 平成18年度においては宿泊施設を調査 ・統計的手法による観光客の移動実態の分析や施設に対するアンケート調査の実施	観光事業者数(数)	20

<金額の単位:千円>		18決算額(見込)	19予算額(当初)
事業費	特定財源		
	国庫支出金		
	県支出金		
	起債		
	その他		
	一般財源	50	50
	事業費計(A)	50	50
人件費	正規職員所要時間	18年度 180	19年度 180
	臨時職員等所要時間		
	人件費計(B)	644	644
	トータルコストA+B	694	694

特定財源内訳や補足事項	
-------------	--

(3)この事業目的の達成は、次の上位(施策や主体の役割)目的の達成に結びつきます。

目的の記述	結果 この事務事業の施策(基本事業)の目的	上位成果指標(施策又はムトス指標)と単位	上位成果指標の数値			
	多様な産業が発展できる経済力の強いまちづくり	観光消費額(億円)	現状値	145	19実績	150
			20実績		21実績	
			22実績		23目標	184
		経済自立度(%)	現状値		19実績	
			20実績		21実績	
		22実績		23目標		

この事業を開始したきっかけ	事業を取り巻く状況の変化	事業に対する市民や議会の意見
・地域活性化プログラムの具現化 ・2村の合併により飯田市への新たな観光流入経路が発生することとなった。既存の流入経路に変化が生じたり、地域間での観光客のバランスが変化する可能性がある。 ・主要観光地間の情報を積極的に共有することで、飯田市内への滞留時間を延長させることができ、交通や農業、商店街などの多様な連携が可能となる。	観光事業に関する統計等において、調査地点を適正に把握し、積算する必要性が指摘されている。これら統計手法の確立と、地域内観光客の動向を正確に把握することなどで、観光客の繫留策を講ずることが求められている。	

### 【See】18年度の振り返り

目的妥当性評価	この事業の意図の達成が、結果(上位目的)に結びついていますか？	(評価) 結びつく (その理由)	有効性評価	成果をさらに向上させる余地はありますか？	(評価) 余地がない (その理由)
	対象の見直し、拡大、縮小の必要性はありますか？	(評価) 必要性がない (その理由)		廃止・休止した場合の影響はありますか？	(評価) 影響あり (その理由) 地域経済活性化プログラムの現状分析が不可能となる。
	意図の見直しの必要性はありますか？	(評価) 必要性がない (その理由)		他に類似事業はありますか。また統合の可能性はありますか(市以外の取組も含む)？	(評価) 統合不可能 (類似事業名、理由) 他に類似する事業がなく、統一は不可能である。
	市が関与する必要性はありますか？(市が税金を投入すべき事業ですか)	(評価) 必要ある (その理由) 情報の一元化には飯田市の関与が不可欠である。観光協会の事務局とも連動する必要がある。		効率性評価 成果を下げずに、事業費や人件費の削減は可能ですか？	(評価) 不可能 (その理由)
			公平性評価 受益者は誰ですか？また、負担の是非、程度は妥当ですか？	(評価) 妥当である (受益者とその理由) 受益者は観光協会の会員が中心であり、適切な費用負担の基に事業が遂行される。	

### 【Plan】改革改善

今後の事業の方向性	何を、いつまでにどうするのかの改革改善案
<input checked="" type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的見直し <input type="checkbox"/> 別事業に統合 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input type="checkbox"/> 現状維持 実施年度 20 具体化	
上記の改革改善案を実施する際、想定される課題とその克服方法	

#### 【補足事項環境側面】

(1) 環境影響評価の必要性判断	必要性がない	(2) 必要性な場合の実施事由
(3) どのような点に配慮し事業に取り組みましたか？		

#### 【指摘事項】

施策マネジメント会議	
施策評価会議	
第5次基本構想基本計画推進委員会	